

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 木下 美音
所属 大阪公立大学 農学部 応用生物科学科
学年 1年

留学先 全北大学

留学期間 2023/2/12~2023/2/25

記入日 (Date) 2023/03/11

留学レポート Study Abroad Report

私は今回の語学研修が初めての留学となりました。韓国への留学に行こうと思ったきっかけは、私は大学に入る前の中学生の時、K-POPにはまり、K-POP アイドルの歌の歌詞やアイドルの人たちがしている会話を理解できるようになりたいと思い、現地に行ってネイティブの韓国語を学びたいと思ったことです。

受験が終わり、大学に入って時間に余裕ができたなら、必ず行こうと思っていましたが、私が高校2年生の時、新型コロナウイルスが流行し、留学どころか、海外渡航ができなくなってしまい、大学に行っても、留学することができないのではないかと不安でした。しかし、今回新型コロナウイルス蔓延が落ち着いて、無事に行くことができるようになってとても幸運だったと感じています。

私は今回の語学研修で韓国全州市にある全北大学に学校から40人程の集団で留学しました。全州市は、ソウルと違って、観光客が少なく、日本人も少なかったため、生活をする中で韓国語を聞いている時間が多く、とても韓国語を勉強しやすい環境でした。

授業がある日は、授業が午前中にあり、午後から自由時間、または現地の日本学科の学生の方々と交流会、韓屋村での韓服体験などが設けられていました。授業がない日は、テコンドー体験やソウル観光などを一日通して行いました。

授業は、初級、初中級、中級の三つのクラスに分かれており、私は一番上の中級クラスを選択しました。大学に入る前までは独学で韓国語を勉強していたので、自分の力量に自信がありませんでしたが、自分のレベルより高い授業についていこうとすることで、韓国語を話す技術の上達がとても速かったように感じました。教えてくださった韓国語の先生はとても聞き取りやすいスピード、明瞭さで教えてくださったので、韓国語に耳が慣れていきやすく、聞き取れる韓国語が授業を重ねるたびに、徐々に増えていき、聞き取れるたびに喜びを感じることができました。また、大学で受講していた韓国語授業と違って、教科書に載っている文法を使った文章の作文や音読だけではなく、先生とちょっとした会話や、プレゼンテーション発表など、とても能動的な内容で、自分が持っている韓国語の技術を最大限発揮できる場であり、現地の人々に自分が話す韓国語は通用するのか、どの程度の技術を持っているのかを学校の定期テストとは違う方法で客観的に分析することができました。

自由時間がある日は、買い物に行ったり、飲食店でご飯を食べたり、現地の日本学科の学生の方々と遊びに行ったりしました。外国人の観光客が非常に少なかったため、注文や定員さんへ質問するとき、すべて韓国語でした。普段は日本人のルームメイトと一緒に行動していましたが、最初は、私の話す韓国語が現地の方に通じるのかが不安で注文するときも、話しかける時も少しためらっていましたが、勇気を出して一度現地の方に韓国語で話しかけて通じたときに、自信がついて積極的に韓国語を使えるようになっていきました。時々、通じなかった時は別の言葉に言い換えて一生懸命説明し、その後どういえばよかったのかを調べてみて、次の会話の参考にするなど能動的な勉強姿勢ができました。私が話す韓国語が現地の人に通じた時、本当にこれ以上ないというような喜びを感じました。特にうれしかったのは、ショッピングモールの図書館に行ったとき、レジでの会話で、私が定員さんに「袋いりますか?」、「ポイントカードありますか?」と聞かれて対応した後、カード決済でサインを書いた時、定員さんが私の書いたサインの名前を見て「外国の方なのに、発音がお上手ですね、発音難しいと思うのですが」と言ってくださいました。その瞬間本当に嬉しかったです。発音は、授業で先生が話す韓国語を聞きながら、真似をするようにしていました。通じた上に、発音まで現地の方に褒めてもらうことができ、達成感と喜びを感じました。

日本人と行動することになると、会話が日本語で行われるので、韓国語を使う機会がそれほど多くなく、言語を学習する上ではよくないのではと、留学に行く前は不安に感じていましたが、授業で学習したばかりの韓国語を使ってみたいという感情が湧いて、日本人と会話するときも韓国語を使うことが日を重ねるごとに多くなり、韓国語を話す機会がさらに増えていきました。相手の子が「〇〇って韓国語でなんていうの?」と聞いてきた時、答えてあげたり、答えられなかった単語については調べたりという作業を日常的に繰り返してい

